



令和3年度

奄美野生生物保護基金 活用結果のご報告



・奄美野生生物保護基金とは？

「奄美野生生物保護基金」は、奄美群島に生息・生育する野生生物と人間との好ましい共生関係を築き、群島の動植物を保護することを目的に設立されました。奄美群島12市町村、鹿児島県、環境省で作られた「奄美自然体験活動推進協議会」によって管理・運用されています。

・基金はどこから出ているの？

主に個人や団体のみなさまからの寄付で成り立っています。大和村へのふるさと納税（納税額のうち3割が保護基金になります）や、奄美野生生物保護センター内に設置されている募金箱への寄付が主要な財源になっています。

・具体的にどのようなに使われているの？

- ①鹿児島県では、数が減って保護が必要な野生鳥獣や交通事故やバードストライクなどの人為的な影響を受けてケガをした野生鳥獣に対し、指定された動物病院の協力のもとで積極的な保護を行っています。そのため本基金では県の補助の対象にならない餌の購入等にかかる費用や運搬費などの一部を補っています。
- ②持ち主に所有を放棄された希少植物や、盗掘等をされた植物で採取場所が不明で元の場所に戻せない植物などについては、奄美野生生物保護センターで栽培をしており、す。元気に生育し花を咲かせた物についてはセンター内で展示を行っています。基金では、これらの植物の栽培に必要な腐葉土やプランターなどの購入を行っています。



令和3年度の会計報告

会計報告とは、野生生物保護基金管理運用規程に定められている、前年度の保護基金使用状況の報告のことです。会計報告は令和4年5月に開催された奄美自然体験活動推進協議会の総会において、本基金の会計報告が承認されました。

この会計報告の概要を紹介します。

右の通り、令和3年度は184,869円が歳出に充てられました。

①傷病鳥獣関連：169,099円

②希少植物関連：15,770円



令和3年度 奄美野生生物保護基金会計報告

令和3年度 保護基金会計報告 歳入・歳出内訳

【歳入】

区分	項目	予算額	決算額	差額
(1) 繰越金		1,694,622	1,694,622	0
(2) 協力金		0	0	0
(3) 寄付金		150,000	199,837	49,837
(4) 利子		10	11	1
総額		1,844,632	A 1,894,470	+49,838

昨年度の歳入・歳出内訳は左の通りです。

昨年度は奄美いんまや動物病院さんに80件以上、ゆいの島動物病院さんに20件以上の傷病鳥獣が搬入があったため、傷病鳥獣保護費が多めの歳出となりました。また、傷病鳥獣保護費には植物の保護費用も含まれています。

【歳出】

区分	項目	予算額	決算額	差額
(1) 傷病鳥獣保護費	奄美いんまや動物病院 植物保護費 ほか	100,000	184,869	-84,869
(2) 役務費		0	0	0
(3) 予備費		1,744,632	0	1,744,632
総額		1,844,632	B 184,869	+1,829,501

令和3年度から令和4年度への繰越金は
¥1,709,601 (A-B)
です。

R3年度は奄美いんまや動物病院さん、植物保護担当者よりご報告頂きました。内容は以下の通りです。

奄美いんまや動物病院さんの保護報告

主な保護動物の種類と内訳・リリース数

保護動物	保護個体数	リリース・展示館
鳥類	76	19
哺乳類	5	2
は虫類	3	1
両生類	1	0

R3年度は特に鳥類の保護数が多く、全体の約9割を占めていました。その中でも交通事故・バードストライクが目立ちました。哺乳類ではクマネズミ1件を除いて全てアマミノクロウサギで、傷病原因は交通事故・ネコ咬傷でした。また、両生類はアマミシリケンイモリの1件でした。は虫類は全てウミガメで、釣り針の誤飲等で搬入されました。このような事故を防ぐため、釣り具は海に捨てないようにしましょう！

主な傷病原因とその内訳・死亡個体数

傷病原因	保護個体数	死亡個体数
交通事故	40	22
感染症	1	1
バードストライク	10	7
衰弱	7	6
他個体による襲撃等	7	5
ネット絡まり	6	4
その他・不明	14	4
合計個体数	85	49

特に保護数の多かった鳥類の上位4種を紹介します。（保護した鳥類は合計27種類でした）

- ・サシバ（9個体）
- ・リュウキュウアカショウビン（9個体）
- ・アマミヤマシギ（7個体）
- ・リュウキュウコノハズク（6個体）



※死亡しなかった保護個体のうちウミガメ等は奄美市大浜の海洋展示館で飼育中。
また、下表の死亡個体数には死体搬入も含まれます。

ひとこと

R3年度は奄美いんまや動物病院さんに85個体の傷病鳥獣が搬入されました。傷病原因の内訳を見ると交通事故が40個体と約半数を占め、残念ながらその内22個体が死亡しています。車を運転する際は十分に気をつけて運転してください。また、鳥が目測を誤ってガラスなどに突っ込んでしまうバードストライク等も10件起こっています。ガラスに森や空が映ってしまうことで、飛び込んでしまうようです。これはガラスに猛禽類などを模したバードセイバーというフィルムを貼ることで予防できることもあり、大きなガラス窓がある施設などでは実際に取り組みをしているところもあります。実際、保護センターではガラス面にシールを貼って、バードストライクを減らす取り組みをしています。軽い症状の場合、段ボールの中で休ませると回復する場合もあります。

保護個体写真



アマミノクロウサギ



カイツブリ



オーストンオオアカゲラ



リュウキウコノハズク(ヒナ)



アオバズク



シロハラクイナ

保護植物写真



↑ 植え替えの様子



↑ 植物小屋内部の様子 →



タニムラ
カンアオイ



トリガミネ
カンアオイ



アマミカヤラン



キバナノ
セッコク



ヒメサギ
ゴケ

ひとこと

R3 年度は希少植物の植え替えを大々的に行いました。弱っていた個体も、土を変えることで生き生きとしてきました。植物の管理にはボランティアの方が関わってくださっています。アドバイスを受けながら、少しずつ展示できる植物を増やして行きたいと思います。遺産登録後もランなどの希少植物の盗掘がなくなりません。これらの植物は奄美群島各地の独特な環境に適して生育してきたもので、鉢植えでの栽培が非常に困難なものもあります。もし捕えられずにまだ山にあったなら、どんな美しい花を咲かせていたか考えると、とてもさみしい気持ちになります。小動物もそうですが、野生から採取したと分かるものがネットに流通していても買わないようにお願い致します。